

Narashino International Association



NIA SQUARE ファウエア

Quarterly News

第65号

2004年3月1日
習志野市国際交流協会

- Special イラ フォルモサ！ 台湾
- What's New 21世紀最初の独立国東ティモール
- Report ネパールで本物を見つけた
- Report N.I.A. 事業報告

- N.I.A Youth 来たれ 青少年部会へ
- Who's who こんにちわ・コンニチワ
- Challenge ザ・英文クロスワード

イラ フォルモサ！ (美しい島)

たいわん
台灣

リョウ・ユエン イエ
劉 圓 煉
(NIA会員)

概要

台湾は、南北に細長い島で面積は約3万6千平方km、九州とほぼ同じくらいの大きさで、アジア大陸の東、太平洋の西岸の東アジア諸島の間にあります。北は日本の沖縄諸島、南はフィリピン諸島に接し、アジア各地の交通の要所です。航空機も便利で、気軽に旅行できます。



台湾は大きくはありませんが、豊かな自然と文化に恵まれています。高山、丘陵、平原、盆地、離島、峡谷、海岸など、様々な景色を見せてくれます。また、北回帰線が通っているため、台湾では熱帯、亜熱帯、温帯の生態を見ることが出来ます。初めて台湾を“発見”したポルトガル人が「イラ フォルモサ！(美しい島！)」と言ったことから、現在でも台湾の呼称には「フォルモサ」が、使わ

れています。

文化の方面では、中国各地の出身者、原住民など、異なる民族からなり、多くの文化を併せ持っています。宗教、建築、言語、民族習慣、食生活などでも融合しているのです。特に「食」は多様で、「グルメ王国」台湾として世界的に有名です。

歴史

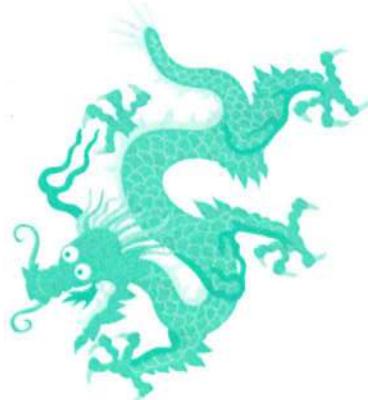
台湾には7千年的歴史があります。詳しいことは分かっていませんが、7千年前から4百年前までの間に南島語系原住民の祖先が台湾に住みつき、最初の台湾居民となつたと言われています。

16世紀以降、ヨーロッパ列強がアジア貿易に乗り出してきており、台湾はスペインやオランダ、また大陸からは、中国(清代)等々々に統治されました。

19世紀末、日本の植民地になり、第二次世界大戦が終息すると、中国から新しい移民がやってきました。このように台湾は、様々な文化の交差する国となりました。

自然

九州ほどの大きさの台湾は、北回帰線以北は亜熱帯、以南は熱帯とふたつの気候区分を



持っています。日本のような四季の変化は見られず、長い夏と短い冬があるのみです。

地形は変化があり、様々な動植物がいます。その中でも非常に有名なのが蝶々です。北から南まで、蝶々がひらひらと舞う姿を見ることが出来ます。また、日本と同じく環太平洋火山帯に含まれる為、温泉も豊富で、100箇所以上の温泉がありますが、亜熱帯地域の台湾では、人々毎日風呂に入つて体を温める習慣がないので、ぬるめのお湯でゆったりリラックスできるようになっています。

〈宗教〉

台湾は様々な宗教を有する国で、仏教、道教、キリスト教、イスラム教、ヒンズー教等があり、伝統宗教を信仰するだけでなく、外来の宗教思想も幅広く受け入れています。伝統的宗教には、主に仏教、道教、民間信仰が挙げられますが、現在では純粹な仏教寺院は少数でほとんどが道教の寺廟です。その他孔子廟もあります。孔子廟は、中国でもっとも偉大な教師である孔子を祭ったものです。

近来、各方面の宗教の勢いが盛んで、カトリック、プロテstant以外にイスラム教や大同教、天理教などがあり、台湾において一定の地位を占めています。

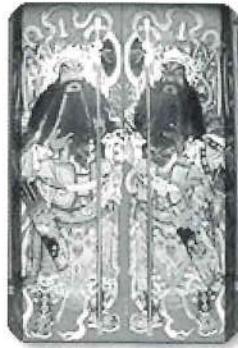


〈文化〉

台湾の文化には、主に中国文化、原住民文化、植民地文化があります。台湾の発展過程には原住民、中国大陆の南部（福建省）や客家（広東省の一部分）からの移民、オランダ人、スペイン人、日本人、さらに近代には中国大陆からの移民などが関わっており伝統的な文化をよく保存すると共に、新しい文化も吸収し発展させています。そのために現在、原住民文化、当地本来文化、中国文化、オランダ人や日本人が残していった歴史の古跡が見られます。

=中国文化=

台湾の伝統的な建築は、民間芸術の総まとめで、その装飾は、極めて緻密に作られています。絵画、書道、木彫り、石彫り、泥人形、陶磁器などは、すべて建築の素材となっており、建築の中には、台湾文化の豊富な内容を見ることが出来る様になっています。



天后宮門神（お寺の門には絵が描かれています）

台湾の主な時節まつりには、春節（旧暦の新年）、元宵節（旧暦の1月15日）、端午節（旧暦の5月5日）、七夕（旧暦の7月7日）中元節（旧暦の8月15日）などがあり、その期間大規模な民族イベントがあります。

また、台湾は自分の特有な芸術である、“歌仔戲”（台詞を歌にて歌うお芝居）や“布袋戲”（手と指で人形を操るお芝居）を作り出しました。これらは、国際舞台でも演じられています。

=原住民文化=

豊年祭、祖靈祭等は、台湾原住民の神秘的文化で、台湾文化に違った生命力を



ルーカン 鹿港天后宮

そこには、台湾原住民は、大部分が山岳地帯に居住しており、約10種族に分かれ、それぞれに独自の言葉や風俗習慣を持っています。しかし、現在文化保存の問題に直面しているのも事実で、離れ島の“蘭嶼”に住むアミ族の人達は、地理的に隔離していたため、漢民族との接触が最も遅く、したがって最も完全な原住民文化を保っています。

植民地文化

台湾の多くの場所で、過去の植民地時代の面影を見ることが出来ます。淡水の紅毛城は、オランダ人とポルトガル人が、台湾の一角を占領した時の建造物です。また、日本の植民地時代から残されたバロック風な建築もよく見られます。台湾総統府は、代表的な日本植民地時代の建築です。教育面では、日本の影響も強く、制服を着た学生が見られるのもその一つです。

人々

台湾の人口は、約2,200万人です。言語は、中国の共通語（北京語）を公用語としています。しかし、台湾は、福建南部から来た人が多いので、方言として福建語（閩南語）を話す人が多く、人数はやや少ないが、客家の人や原住民の各族は、それぞれ特有の言語を保有しています。また、日本の植民統治が、半世紀の長きに及んだので、当時日本教育を受けた年代の人達には、日本語を話せる人が多くいます。

様々な統治を受け入れたからか、台湾人の気質には「お客様は、皆友達」と考えるおおらかな性格があります。結婚式などは、多くの人が気軽に参加でき、人数が多くれば多いほど良いとされ、大変にぎやかな式になります。

また、生活のさまざまな場面において、風水を取り入れており、特に“婚葬喜慶”（結婚、葬式、各種のお祝い）時には、必ず風水の本（黄曆）にしたがって行います。

美食

台湾は、言わずと知れた食天国。台湾人の食へのこだわりは相当なものがあります。まず、朝食のバリエーションが豊富で、油條（揚げパン）、包子（肉まん）、水餃子等の小麦系、台湾式、香港式のあるお粥、若者は朝食にハンバーガーもよく食べます。家で作ることは少なく、朝食から外で買って食べる事が普通です。

また、独特なのは、何でもテイクアウトにすることです。スープ類から北京ダックまで全てビニール袋に入れて持ち帰り、食事に参加できなかった人へのお土産になったりします。夕食後に休息を取った後は、家族総出で



夜市一景（日本でいう屋台がたくさん出ます）

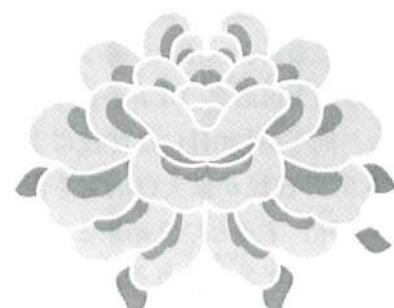
夜市に出かけ、夜食やデザートをとることも多く、台湾のデザートがおいしいのも、こうした影響なのです。

台湾は、フルーツ天国でもあります。亜熱帯、熱帯、山岳地帯それぞれにおいしいフルーツがとれ、台湾の名を冠したタイワンバナナ、パイナップル、パパイヤやスイカなどは、1年を通して味わうことが出来、夏はマンゴーやライチがおいしく食べられます。

古くからお茶を飲んだ中国では、お茶をおいしく飲むための創意工夫がなされ、それがルールとなって台湾に伝わり、現在の台湾茶芸となりました。台湾でのおいしいお茶の飲み方は、急須の一杯目を捨てることです。二杯目をついだら急須の上からまたお湯を注ぎ、温めます。また、飲み方は、最初に香りを楽しみ、その後に飲みます。これで香り高い台湾のお茶がおいしく楽しめます。

終わりに

日本から台湾まで片道3時間、様々な楽しみ方の出来る台湾に是非一度いらしてください。情熱的で寛容な台湾の人々がお待ちしています。



私は現在、独立行政法人国際協力機構（JICA、ジャイカ）という機関に勤めています。ジャイカは、開発途上国の人材の育成を通じて、貧困問題の解決や経済発展のための協力を正在进行る政府関係機関です。今回は、これまで自分が関わってきた仕事の中で最も印象深いものの一つである、東ティモール紛争後の復興支援について御紹介したいと思います。

1. 東ティモール独立までの歴史

東ティモールはインドネシアの東部にあるティモール島に位置し、面積は約1万4千平方Kmで長野県程度の小さな国です。人口は約80万人で農業を主体とし、その約9割はカトリック教徒です。



16世紀以前はティモール島にはリウライと呼ばれる王が各所を治めていました。16世紀以降ポルトガルとオランダが相次いで進出し、1859年の里斯ボン条約でティモール島を東と西に分割しました。第二次世界大戦中に日本軍が全島を一時占領した後に、西ティモールはインドネシア共和国の一部として独立を果たしましたが、東ティモールは引き続きポルトガル領として残りました。

しかし、1974年にポルトガルが植民地独立の政策を打ち出したのに対し、東ティモールでは、独立を想定して政党が相次いで設立され、東ティモール独立革命戦線（フレテリン）などが東ティモール民主共和国の独立を宣言しました。これに対し、インドネシアは東ティモールの治安回復を理由に侵攻し、1976年にこれを併合しました。併合と同時にフレテリンの軍事部門であるファリントルはゲリラ活動を展開し始めました。

1999年になると、インドネシアのハビビ政権は東ティモールの拡大自治案の是非を問う選挙を実施することを提案し、同年8月30日には住民による直接投票が実施され、78.5%の住民が拡大自治案を否定（独立を選択するという意味）するという結果となりました。しかしながら、投票結果が公表されると、この結果に反対する勢力による放火、略奪、暴力行為などが発生しました。その

ため、多くの家屋や施設が破壊され、また、人口の75%以上が国内外に避難しました。

この状況に対処するために、1999年9月に国連決議により多国籍軍が派遣され、東ティモールの治安回復と安全確保にあたりました。そして、同年10月に同じく国連決議により国連東ティモール暫定行政機構が設立されました。

2. 復興支援開始時の東ティモール

私が初めて現地を訪れたのは2000年の1月5日でした。当時、民間航空便などではなく、国連が運行するC-130機でオーストラリアのダーウィンから東ティモールに到着しました。東ティモール暫定行政機構の設立から2ヵ月強が経過しており、治安は大半は回復していましたが、首都ともいえる中心都市のディリ市内においても多くの建物が焼け落ちていました。郊外の農家でも焼け残った家は配付されたビニールシートをかけて生活していました。もちろん滞在用のホテルなども残っていましたが、私が訪問した時は幸いにもディリ港に船上ホテルが横付けされており、大変狭いながらも泊まることができました。それ以前は外国人関係者は暫定行政機構の事務所である元インドネシア東ティモール州政府庁舎の大きな講堂の中に、皆テントを張って生活していたそうです。また、食堂も暫定行政機構のカフェテリアを含めても市内に3、4軒ほどしかなく、昼も夜もいつも同じ人と顔を会わすという状況でした。



マナトウトウという町の破壊の様子

幸い、電気はディリの発電所が破壊からのがれたため、外国からの燃料の援助を受けて供給されていました。水もディリでは何とか供給されていましたし、電話もオーストラリアの電話会社が、いち早くディリに携帯電話の通信局を設置したので、市内は携帯電話だけは通じました。しかし、ディリ以外の地域では電話は全く使えませんでした。また、市内に商店などは全くといつていいほど残っておらず、食料をはじめあらゆる物資はオースト

ラリアなどの外国から持ち込む必要がありました。また、公式の通貨も決まっておらず、ディリではインドネシアのルピー、米国のドル、オーストラリアの豪ドルが通用していました。



マナトゥトゥの水汲み場の子供達

住民の表情は、争乱がようやく納まったところで緊張の色がまだ消えていませんでしたが、同時に、将来に向けての希望の大きさを感じとられました。私達が街ですれちがっても、明るい笑顔が返ってきたのがとても印象的でした。

3. 東ティモールの国づくりのための協力

次に東ティモールの独立に向けた国づくりがどのように行われたかをお話したいと思います。

多国籍軍により治安が回復された後、まず最初に行わなければならぬことは、争乱でインドネシア領である西ティモールに移動した25万人以上の難民と数十万人の国内で避難した人々を、元の居住地などに帰したり、再び生活できるようにすることでした。また、避難していない住民の食糧不足なども深刻でした。そのために、避難した人々を輸送したり、定住するためのシェルターと呼ばれる簡易な住居の材料を提供したり、食糧の配付や水の確保、医療活動などがすみやかに行われました。

このような緊急人道支援と呼ばれるものに引き続いだ、東ティモールの復興と開発に対する協力が行われました。そもそもインドネシアの一つの州だったところが、新しい国になるですから、紛争後の復興といつても立法、行政、司法の基本的な制度を一から作る必要があります。例えば小学校を例にあげると、全国において破壊された建物を修復する必要がありましたが、同時に、新しい教育制度（先生の採用や給与の支払いも含まれます）を確立しないと学校は再開できません。また、司法制度についても、暫定行政機構は新しい法律ができるまではインドネシア時代の法律を適用することとしていましたが、裁判の制度が整っておらず私が最初にディリ訪問した時に初めての裁判官などの任命式がありました。

このように軍や警察、司法、通貨や金融、公務員、教育や医療など、国の運営に必要な諸制度の構築や、農業

などの産業の復興、水、電力、電話、道路などの社会基盤の復興その他多くの問題に取り組んでいく必要がありました。

この東ティモールの国づくりは、東ティモール暫定行政機構を中心に東ティモール側の意見を聞きながら、国連機関や世界銀行などの多くの国際機関や日本、オーストラリア、米国、ポルトガル、EUなどの外国政府、また、たくさんの海外の非政府組織(NGO)からの協力を得て進められました。それぞれの機関はお互い相談をし、分担をしながら国づくりに協力していました。このように国際社会からの色々な形の支援を受け、東ティモールは国としての準備を進めました。2001年8月に憲法制定議会の議員選挙が行われ（この議会がそのまま国会になる）、2002年3月には憲法が公布され、4月に大統領選挙が行われてシャナナ・グスマン大統領が選出されました。そして5月20日に、東ティモール民主共和国として21世紀最初の独立を果たしました。独立記念式典は、世界の90カ国以上から首脳を招いて開催されました。私も参加しましたが、式典会場はディリの都心から少し離れていたにも拘わらず、多くの人々が歩いて深夜の会場に集まり、歓喜の熱気に満ちあふっていました。



2000年2月のアナン国連事務総長(右から2人目)の東ティモール訪問

4. おわりに

国際社会からの祝福を受けて独立国として歩みを始めた東ティモールですが、解決すべき課題はまだまだ数多くあり、これからも息の長い努力が必要です。

私は、もともと学生の頃から世界の食糧問題や貧困問題に興味があり、この仕事につきました。私自身は戦後生まれですが、来日した東ティモール人に日本の終戦直後の焼け野原の写真を見せ、日本の復興について説明すると、東ティモールの争乱直後の風景と重ね合わせて、自分達もこれからだと大変共感されます。

あたりまえのことですが、やはり世界には様々な国があり、様々な人々が暮らしていることを十分理解することが大事だと感じています。

スクウェア第62号では高山暉邦氏の「ナマステの国、ネパール王国から」という素敵な文を掲載しました。今回は、本協会会員の加瀬さんから、若者の目から見たネパールの片田舎の訪問紀行が届きました。きっと都会カトマンズ等とはまた違ったネパールの良さが見えてくるのではないかでしょうか。

わたしには日本で働くネパール人の友人がいる。先日彼が帰郷をしたので、私も行ってみることにした。

カトマンズに着いて早々、私は客引きに囲まれ、騙されるというやな洗礼を受けた。しかし、なんとかタクシーを見つけ、友人の住む村へ向かった。タクシーといつても、ドアノブもついていないようなボロボロのトヨタ車である。当然途中何回もオーバーヒートを繰り返し、やっとのことで6時間後に友人宅に着いた。その時私も、タクシー同様ボロボロになっていた。

居間に案内されると早速ご近所の方や親戚の人達の好奇心に満ち溢れた目に迎えられた。しかし、言葉もわからず、そこにはなんとも言えない沈黙の時間が続く。そんな時、友人の甥や姪がやってきて、英語で話しかけてきたのだ。中学生は流暢に、小学生は簡単な英語で積極的に質問てくる。私は心の中で「負けた」と思った。

私が訪れた10月初めのネパールは、どこでもお祭りのシーズンだった。日本で言うお正月みたいなものだろうか。学校は休みになり、皆、親戚の家などを行き来し、通りはいつも賑わっていた。

友人一家と共に参りに行った時のことである。長く長く階段を子ヤギや鶏を連れて登って行くいくつもの家族が目にとまった。そして、首のないそれらを担いで降りていく家族にも・・・。生贋にするのだという。「宗教とは何てグロテスクなのだろう」と思った。

また、子ども達に連れられてご近所回りもした。家長から、額に赤い粉で色づけしたお米、『ティカ』をつけてもらい、『ジャモラ』という葉っぱと、果物そしてお

こづか 小遣いをもらう。宗教も國も違うのにいいのかなあ、と言う気持ちと、彼らよりも生活に恵まれている私が大切なお金を貰ってもいいのかなあ、という気持ちが複雑に絡んだ。しかし彼らは、生活水準など関係なく、私を手厚くもてなしてくれるのだった。

そういうえば友人も、私に一番涼しい部屋を用意してくれた。ご飯だって一番先に出してくれ、奥さんが「もっと食べて」と勧めてくれる。子ども達は私と手を繋ぎたがるし、日本のカメラやコインはもちろん、メイク用品やバス用品等、私の持ち物ほとんどに興味を示してくれる。

私は日本では、注目されるような偉い人間でもないしたいした物も持っているわけでもない。こんな場面に接する度に、私は彼らを騙しているのではないかというような気持ちになった。

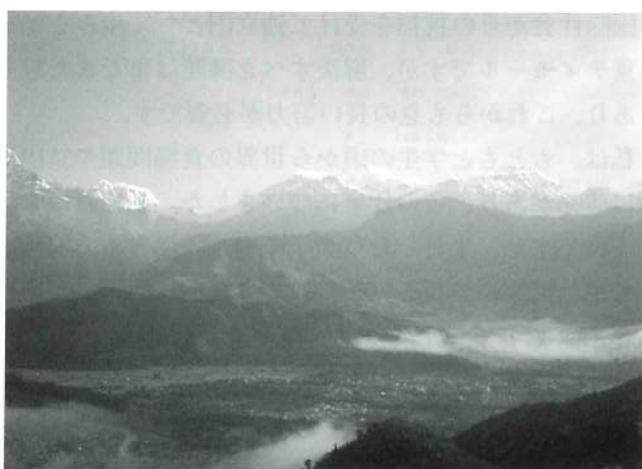
ある日、友人一家とブッダの生まれた地『ルンビニ』とヒマラヤが見渡せる地『ポカラ』に小旅行をした。

今回も例のタクシーに負けないすごいバスでの旅行である。途中いくつもの山道を越えるのだが、ガードレールもなく、すぐとなりは崖である。時折土砂崩れの跡が、



ポカラに向うバスの中で

狭い道をさらに狭く、またぬかるみにもする。おまけに、手を挙げる人がいればすぐに客を乗せてしまうからバスの中は常に混んでいる。私達はクッションの薄い二人掛けの椅子に子どもを膝に乗せて4~5人で座らないといけなくなった。それどころか乗客は、屋根にまであふれだしていったのである。そんな状況でも、バスは猛スピードでカーチェイスをするのだから恐ろしい……。



雄大なヒマラヤ山系

でも、もっと恐ろしい事は、ネパールに反政府運動が起きていることだった。そのお陰で旅行中軍隊の検問にはよくあい、その度ごとに女、子ども以外は一度バスから降ろされ、荷物などのチェックをする。またその間、銃をもった兵士がバスに乗り込み、怪しい人物が無いかチェックをされる。バスの中は時々緊迫した空気が漂った。

小旅行からの帰りのことである。先述の山道のおかげで、村のバスターミナルに着くのが遅くなつた。とはいへ、まだ夜の8時前である。けれどネパールでは、国内紛争のお陰で夜8時以降に外出が出来ないのである。昼間賑わっていた商店街も人影が消えつづつあった。だから1時間も歩けば家に帰れるのに、またここで宿を探さなければならなくなつたのである。私は半ば怒りで「帰りたい」と駄々をこねた。しかし、8時を過ぎると銃を持った兵士を乗せた戦車が、轟音を立てながら何台も街にやって来た。それを見て友人の言う事がよく理解できた。

お祭りの間の1週間位は停戦条約が結ばれていたようで、それでも静かな方だったらしい。だからお祭りが終わる翌日、T Vでネパールのどこかで50人が紛争で亡くなつたというニュースが流れたのには背筋が凍つた。

ネパールでは大抵トイレには紙はない。大きなカップに水を汲んで左手で洗浄し、便器も流すのだ。私にはどうしてもそれが出来ず、トイレットペーパーを使っていたが、1ロールで水2本分程の値段はしたから、ダブルの紙をシングルにはがして短めに使っていた。鼻をかむにも、こちらの人は手でかんで水で流したり、ハンカチを使ったりする。私はずっと風邪を引いていたので、最初は紙を使っていたけれど、なくなつてしまふと、こちらの人と同じように鼻をかむようにした。慣れてしまえば、実に経済的なのだが。

このように、日本では当たり前に思えるものが、こちらではそうはいかないものがたくさんある。

飲み水。朝、裏の井戸から汲んで、こしておくのだが、来客が多い日の夜は、もう終わっていたりする。冷蔵庫もないから、たまに冷たい水が飲めれば感動ものだ。洗濯は井戸で行う。シャワーからは水しか出ないから、いつも鳥肌をたてながら浴びた。子ども達が裸足で歩くから、私の部屋にも砂が入ってくる。道路は未舗装で、車が通るたびに砂が舞い、歩いていると全身砂だらけになる。街の食堂にはハエが舞う。店の品揃えは少ない。その上、航空券も入場料も外国人は2倍の額をとられるのだ。「なんなんだ！ この国は!?」と何度も思った。

しかし、ある日友人に「ネパールはとても貧乏な国なんだ。」と言われた時、私はふと思った。

「私は日本の生活を基準に物事を考えていた。だけどそれがどこでも当たり前なわけでもないし、一番でもな

い。」と。

確かに今の日本は、物質的には恵まれ、一見進んでいるように見える。しかし、よく見るとこのネパールのような物を大切にする心や人間同士の温かい付き合い等が、失われてきているように思えてならないのである。

先進国という肩書きに甘え、本当に大事にすべき事どんどん見失ってきているのではないだろうか。今日本は、このネパールから見習うべきところがたくさんあるのではないだろうか。そう考えると「私の払った2倍のお金もネパールの人達が幸せになるために使われてほしいなあ。」と思ってきた。そして、この国にも以前のように夜8時を回っても安心して外に出られる日が一日も早く来る事を心から願つた。

帰る前日、友人と肉屋に行った。とはいってもテーブル一つの屋台だ。注文すると店員が裏にいた鶏を絞めて、手際よく捌きだした。この光景はやはり残酷に見えたが、以前より何か素直に受け入れられるようになつた。

ネパールではどこにでも冷蔵庫があるわけではない。けれどこの様な方法をとることで新鮮な食べ物を得ることが出来るのだ。自給自足の野菜は本当においしかつた。

別れの日、私は朝からずっと涙が止まなかつた。バスに乗つてからも泣いていたので、近くの席の若い男の人達がとても心配してくれ、カトマンズに着くまで申し訳ないほど親切にしてくれた。その日泊まつた宿でも、インターネットカフェでもみんなが親切で温かくフレンドリーだった。ただ、カトマンズの方は、もっと現代的



「ティカ」をつけた子どもたち

だけれど。

空港でイミグレーションを通つた時のこと、パスポートをチェックしながら職員が言った。「君が2週間前入国した時、僕がチェックしたんだよ。」と。ネパール人の温かさはこんなところにまで…！ 機内から見たエベレストはとても美しく、私は引き返したい気持ちで一杯だった。

Report/N.I.A事業報告

今年度の各部活動報告

各部会では、今年度も会員の皆様の自主的な活動に支えられ、下記のような事業が展開出来ました。来年度も会員の皆様には、当協会の活動に積極的に参加していただけるようよろしくお願ひいたします。

しまいとしゆうこうぶかい 姉妹都市友好部会

木下 伊津子

本部会では、姉妹都市タスカルーサとより良い交流を図るために、習志野市役所及び教育委員会と連携をとりながら毎年活動を続けてきました。

今年度は、本市からタスカルーサ市に青少年を派遣する予定でしたが、残念ながらイラク戦争の関係で中止せざるを得なくなりました。よって今年度は、姉妹都市桜まつり「俳句・絵画コンテスト」への応募活動が中心になりました。

来年度は、習志野市制50周年という記念すべき年にあたり、タスカルーサからも青少年をはじめ、市関係者等が、大勢お出でいただける予定です。部会としましても、関係機関としっかりと連携をとり、より良い交流が出来るよう支援をしていきたいと考えています。

また、「桜まつり」につきましても学校関係者をはじめ関係機関の方々と協力し、積極的に応援活動をしてまいります。

是非来年度も当部会の活動に対し、皆様のご協力をお願い致します。

こうりょうぶかい 交流部会

林田 陽二

交流部会では5月に行いました会員相互の「交流のつどい」から活動がスタートしました。

この会は毎年総会後に催されますが、今年も外国の方の参加を得て、軽食をとりながら、会員同士が楽しく会話をはずませたり、新しい仲間を紹介したり、外国の会員の方によるお国の紹介（今年度はフィリピン）をしたりして楽しい交流を行いました。

また、秋（11月）には恒例となりましたバーベキュー大会を行いました。今年も100名以上の会員や家族の方々が集まり、野外料理に舌づつみをうちながら、賑やかに楽しく交流を深めました。

1月には新年のお祝いも兼ね、もちつき大会を開催しました。もちをつく人、こねる人、大根おろしやきなこをまぶす人、今か今かと待っている子どもたち、みんなとても楽しげでした。もちろんその後、みんなでおしゃべりしながらおいしくいただきました。

このように今年も会員の方々はもちろん市民の方々との交流を目指して楽しい事業を展開してきました。来年度は、さらにバス旅行も計画したいと考えています。外国の会員の方と一緒に皆が楽しめ、日本の文化に触れら

れるよう所を探したいと思います。是非交流部会の部員になって企画等に参加してみませんか。お待ちしています。

じょうほうぶかい 情報部会

館川 裕

情報部会は「NIAスクウェア誌」を年4回（6月、9月、12月と3月）発行しています。この3月の第65号の特集は「台湾」です。ぜひご一読下さい。

私達にとってより身近な国々として現在「アジアの国々は、今どうしているだろうか」というテーマのもとで特集記事を編集しています。これに拘わらず、読者の要望に応えられる柔軟性のあるスクウェア誌を目指していきたいと考えていますので、特集記事として取り上げてみたい国がありましたらご要望をお寄せ下さい。また、「よし、投稿してみよう！」と言う方がいらっしゃいましたら是非ご連絡下さい。編集部員に加わって下さる方も大歓迎です。

月に1回、第4週の土曜日午後4時から編集部員がNIAの事務所に集まってワイワイやっています。一度見に来てみて下さい。また、ホームページでは、8つの事業部の国際交流に係る楽しい活動内容を紹介しています。一人でも多くのNIAのメンバーが、各事業に参加されることを期待しています。

ひかくぶんかぶかい 比較文化部会

志知 美智子

当部会は、いろいろな体験をとおしながら各国の文化を互いに理解しあい、親善を深めていくことを目的に今年度も活動をしてまいりました。

まず第一は、毎年好評を得ている「シリーズ世界の料理教室」を4回開催しました。作ること、食べることが大好きな人を探し当て、講師になっていただいています。講師には、日本語講座で学んでいる方も多く、学習した日本語を流暢に使っての説明は、日本人の参加者にも大好評です。また、材料の買出し等については、10名余りのボランティア登録者にお手伝いいただいています。

講演会では、異文化に対して広範囲にわたる関心をもち、深く理解されている方を講師にお招きし、お話をいただいています。本年は、世界を駆け巡っている添乗員の方をお招きし、世界の国々の文化についてお話をいただきました。

また、異文化セミナーでは、本年度、日本文化をとりあげ、茶道、華道の体験学習をしました。外国の方の参加も多く、伝統的な日本の文化、作法を学びました。

3月6日(土)には、ポットラックパーティーも開催します。「食こそ文化」ともいわれます。自国の自慢料理を持ち寄っての楽しいパーティーです。

異文化に接し、理解を深めるための機会として、NIAの比較文化部会の催しに、どうぞご参加、ご協力をお願いいたします。

語学研修部会

この部会では、今年度日本語ボランティア養成講座だけを実施しました。

養成講座は、外国人のための日本語ボランティア講師をめざす希望者のために、毎年9月から12月までの3ヶ月間、全30回にわたって行われ、日本語の指導法の基礎やボランティアとしての心構えを学ぶものです。

本講座の講師は、手綱久枝さんです。全過程を修了した皆さんには、すぐに授業を始めていただけるように事務局では準備を整えて待っていますが、最近では入れ替わり立ち代り協会を訪れる受講希望の外国人が多く、やむなく待機してもらっている状況です。

以前は、この養成講座のほかにスペイン語や中国語などの語学交流講座を実施していましたが、予算的なことや教室の確保が困難といった諸般の事情からこのところ休止していました。

しかし、語学講座も再開してほしいとの声が会員の間にも出始めたことから、条件が整えばこれについても今後検討ていきたいと思います。

どんな会話を習ってみたいか、ぜひ会員の皆さんのご希望をお聞かせ下さい。

在住外国人交流部会

栗原 七郎

在住外国人交流部会では、今年度も市内外の在住外国人の方々(成人・子ども)にボランティアで日本語学習のお手伝いをしてきました。この学習では、生活に密着した日常会話は勿論、それぞれの学習者に応じて読み書きや日本の文化、社会事情等の学習も盛り込むよう、工夫しています。現在毎週1回学習している方は、24カ国100名を超えるました。

この部会では、この他にも互いの交流を深めるために在住外国人の方々の願いを記した短冊を飾って「七夕まつり」を催したり、サンバチームを結成し「習志野きらっとまつり」に参加しています。また、ミニハイク(佐倉方面)をとおして日本の文化に触れるとともに会員同志の交流も図ってきました。この他にも日本語ボランティアの方々の指導力向上と視野を広げるために講師研修会も行いました。今回は「日本文化」と「人と人との関わり」というテーマで作家加賀山耕一氏と音楽家月岡祐紀子氏をお招きし、学習をしましたが、内

容が濃く、充実したものになりました。

最後になりましたが今年度も「スピーチ茶話会」を2月25日に開催しました。在住外国人の方は、学習した日本語の成果を生かし、個性豊かなスピーチを一生懸命してくれました。来年度も楽しく学習活動をしていきたいと思っています。

ボランティア部会

山崎 美知代

今年度の活動は、通訳登録の皆様と実のある活動できました。通訳翻訳の活動に加えて、在住外国人の方々と習志野市内公共施設を見学してリサイクルセンターなど、外国人の方にとっても身近な生活に役立つ何かを私達ボランティアがお手伝い出来たことは良かったと思います。

外国人ボランティアの学校派遣も行っています。子供達へ外国の文化を紹介するお手伝いとして通訳活動もしました。

月曜日のALTサロンには、様々な方々が訪れ、英語で話してみる機会を楽しんでいただいたら、来てみて会員になる方も少なくありません。言語別の活動も考えていますが、幅広く皆様とボランティア活動を進めていくためには、まず関心をもっていただきたいと思います。

ボランティア部としての展望は、これから活動の幅を地域へと広げていきたいと思いますが、来年度こそ他の団体のボランティアとの交流も出来ればいいなあと考えています。

さて皆様はどの様な国に興味をお持ちですか。是非地球規模のフェスティバルを外国の方々と考えて見ませんか。

青少年部会

永坂香奈

青少年部会では、高校生と大学生を中心青少年と外国人の交流、異文化への理解を深められる企画(SSサロン)の運営を行っています。SSサロンは毎月第二土曜日に行っています。年齢に関係なく、どなたでも気軽に参加できるイベントを中心に企画しています。昨年度は、NIA会員によるフィリピンDay・韓国Day・エチオピアDay、夏祭り、富士山へのバス旅行、クリスマス会などを企画しました。○○国Dayでは言語だけではなく、最新の流行や衣食住などについて楽しく学ぶことが出来ました。青少年部会では私たちと一緒に企画運営をしてくれる学生を募集しています。企画・運営ってなんか難しそう!なーんて心配はいりません。私達はいつも楽しく企画の運営を行っています。○○国Dayのように学校では学べないことをやってみたい!地域の外国人と交流したい!新しい友達を作りたい!など青少年部会に少しでも興味がある方はぜひ一度SSサロンにおこしください。みなさん始めは緊張していますがすぐにうちとけられますよ。また、青少年部会員作成のホームページもぜひご覧ください。

おはようございます♪青少年部会です！

もう毎度のようにSSサロンについて説明しているので皆さんご存知ですよね？
という訳で、今回は昨年12月に行われたクリスマスパーティについて報告しようと思っています。

今回のクリスマスパーティでは、豪華賞品を用意してのクリスマスにちなんだ○×ゲームや色々な国の言葉や地名を問題にしたクイズゲームをやりました。○×ゲームはなかなか難しい問題もあり、皆さん初めて会った人同士でも相談しあったりして答えていました。そのおかげもあってなのか、皆さん早く打ち解け合うことが出来、5・6人のグループにわかつてのグループ戦でもみんな相談し合ってクイズに挑戦していました。しかし、自分は1つも賞品を手にす



皆で答えを検討中



左から2番目が斎藤園子さん

定番とも言える？プレゼント交換をしました。皆家から持ってきたり決められた金額の中から買ってきたりしたプレゼントを手に持ち、輪になって音楽のリズムに合わせて廻していく、音楽の止まった所で自分の持っているプレゼントをもらえるというやり方でやりました。今回のパーティは、ホントに楽しかったと思います。もし、まだSSサロンに来たことがなくってちょっとでも興味があったり、楽しそうだな～って思ったらぜひ遊びに来て下さいな！英語ができなくっても全然かまわないんで(^o^)

ることが出来なかった…。

そしてクイズが終った後は、今回のパーティのメインとも言える斎藤園子さんの弾くバイオリンを鑑賞しました。バイオリンでディズニーの色々な曲やクリスマスソングなどを演奏してくれ、最後にはバイオリン伴奏のもと皆できよしこの夜を歌いました。今までバイオリンを聞いたことがなかったのですが、ホントに素敵なお演奏でした！ホントのクリスマスの日には彼女と2人で聞きに行きたいと思ってしまったくらいに(>_<)。

そしてパーティ最後の催し物は、クリスマスと言えば



ボーリングもやったよ！スコアは…。

来たれ青少年部会へ！

自分達青少年部会員は上のようなパーティや各種の行事を計画して色々な国いろいろな年代の方をゲストに招いて楽しんでもらえるよう頑張っています。僕がNIA青少年部会に入った理由は、ここに中国人のゲストとして来ていた友達と一緒に来ないかと誘われたのがきっかけでした。最初は、続けられるのかとか、皆と仲良くなれるのか、僕は千葉市民なのに入っていいのかなど色々不安もありましたが、入ってみれば思っていたのとは違ってすごく楽しいし、皆もとっても明るい人すぐに一緒に遊びにいったりできるような仲になりました。それにどこの市民とかも全く関係なかったし！だから僕は今年の4月から就職してあまり来られなくなってしまいますが、出来るだけ続けていくつもりです。あと英語なんか全く出来なくても全然大丈夫だったし。だからもしちょっとでも興味があったら遊びに来るだけでもいいから来て♪1人が嫌だったら友達誘って来て！

会員紹介／こんにちは、コ・ン・ニ・チ・ハ／みなさん、どうぞよろしく！

姉妹都市タスカルーサから来ました。



マイケル・ドケリー
Michael Dockery (アメリカ合衆国出身)

Hello, my name is Michael Dockery. I am from Tuscaloosa, AL, Narashino's Sister City. Since Aug, I have been working as an ALT in Narashino 5th Junior High. I am really enjoying living in Japan and teaching in Narashino.

Japanese life is quite different from life in America. The biggest difference for me has been getting used to not having a car. In America, I used to drive everywhere I went, but now I take the trains and buses, as well as ride my bike and walk. Though it is different from home, I have found my life in Japan to be easy to get used to. Nice to meet you!

はじめまして！



ロルフ サユリ ヴィートリスバッハ コバヤシ
Rolf & Sayuri Wietlisbach-Kobayashi (スイス・日本出身)

妻さゆりは信州、私ロルフはスイスの町チューリッヒで生まれ育ちました。

そして12年前イギリスで出会い、10年前に結婚しました。初めはスイスで暮らしていましたが、妻と一緒に帰る日本が大好きになり、7年前から日本に移り住んでいます。日本の魅力は数え切れませんが、とりわけ日本人の皆さんの人を思い遣る親切な気質、そして食べ物のおいしさに惹かれています。長野市に住んでいた時の最高の思い出は、仕事を通して長野オリンピックに深く関わることができたことです。3年前に上京し、習志野市へは昨年の春に引っ越しして

きました。

習志野市には市全体に温かく、寛容な空気を感じます。私達の願いは、世界中のもっと多くの人々が異国の人々や様々な境遇の人々に関心を持ち、知らない世界を知ろう、学ぼう、受け入れようとする姿勢を持って交流することです。日本は古くから常に外国から学び、良いものは受け入れ、日本に適した形で日本独自のものを創り上げるという素晴らしい才能を持っています。これからは、異なる国家、文化、言葉の壁を越えて今まで以上に世界の中に溶け込んで、その素晴らしい才能を発揮すべきだと思います。たとえ国籍は違っても私達はみな“地球人”なのです。

きお 気負わず、自分の出来ることを！



いしい 石井 光代
みつよ

私はと外国語との出会いは小学生のころでした。その後中学校に入り英語が大好きになり、新しい言葉を覚えることが面白く、趣味のようになりました。今でも我が子や近所の子どもたちと共に音楽や英語を学び続けています。

N.I.A.の会員になったのは、友人の誘いで第6期日本語ボランティア養成講座に応募したのがきっかけでした。ボランティアを始める前には、いろいろと不安がありましたが、やってみると楽しいことがたくさん経験出来ました。現在カナダ出身のカレンさんと学習していますが、日本語を学びあう楽しみだけでなく、感性豊かで素敵な彼女からは、人生を楽しむコツを学んでいるような気がします。

私は、これからも世界に目を向け、平和を願うと共に、日本の四季折々の風情の美しさに触れ、日常のささやかな営みに感謝と楽しみを見出して生きていきたいと思っています。良い友人にも恵まれ元気をいただいているこのN.I.A.の活動に感謝し、これからも気負わず、自分に出来ることを、出来る範囲内でやっていきたいと考えています。

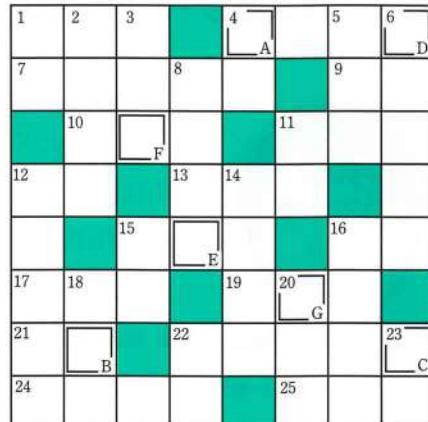
Letsチャレンジ／ザ・英文クロスワードパズルNo.65/プレゼント付！

〈Across〉

- A type of closed carriage.
- Cider is made --- apples .
- The religion of the Moslems.
- A chemical symbol for Radium.
- Island
- Ask for (money, food, clothes etc.).
- Chief Account
- It --- s in the Bible, "Love Your Enemies".
- One of the five divisions of the front part of the foot.
- Tank Corps
- Frozen water.
- Pole with a flat blade used in rowing.
- Opposite of "Yes" .
- Below or beneath.
- Soon, presently.
- December.

〈Down〉

- Crown of India.
- Both Japan and Taiwan belong to the Continent of ---.
- Bales or Barrels.
- Frequency Modulation.
- Rock, earth, etc., from which metal can be extracted.
- Sorcery, Witchcraft.
- Too, Beside, As well, In addition etc..
- He lives in the house --- the lake.
- The people's Republic of ---, the capital city of this country is Peking.
- A long time.
- Topographical Engineers.
- A woody plant commonly ten feet or more in height, with a single main stem and a head of branches and leaves at the top.
- (Often con over)learn by heart, study.
- Put one thing together with another.
- United Nation.
- Red Cross.



〈出題者〉 御園生 馨 (編集部)

〈応募要項〉

クロスを解いたあと、A～Gの文字をつなげてできたことばが正解です。

解答と住所、氏名、年齢、職業、電話番号、本誌の感想等を書いて送って下さい。解答は、ハガキ、FAX、Eメールで4月末日までにお送り下さい。

正解の中から抽選で5名の方に、図書券をプレゼントします。

「N.I.A.スクウェア」編集部まで。

たくさんのご応募お待ちしています。

N.I.A. Potluck Partyにいらっしゃいませんか。

皆さんは、ポトラック パーティをご存知ですか。参加者があり合わせの材料を使って手作りのお料理をつくり、それを持ち寄ってお料理の作り方を教えあったり、楽しくおしゃべりをしたりするパーティをいいえます。

昨年のパーティでは、ペルーのとうもろこしの料理マサモラモラーダやペラルーシの春の伝統料理ブルーニなどお国自慢の食べ物も紹介されました。食べることの大好きな人、作ることに興味のある人、人とのふれあいが好きな人、是非参加してみませんか。お待ちしています。

(比較文化部会主催)

日 時 3月6日(土) 午後1時～3時
場 所 習志野市国際交流協会事務所（サンロード4階）
持 ち 物 手作りお料理またはお菓子1品
(既製品でも構いません)
申 し 込 み 3月5日(金)まで、習志野市国際交流協会
Tel・Fax 452-2650 E-mail nia@seaple.ne.jp

編集後記

- * 今回は台湾を特集しました。台湾は日清講和条約(1895年)で日本との関係を密にし、以来、文化・経済など目覚しい発展をしています。日本への輸出は、香港の十倍にもなっているそうですね。一度訪ねてみたい所の一つですね。(Y.T.)
- * 本来楽しいはずの旅行、コンサート鑑賞やスポーツ観戦などのイベント、そして日常生活までもがテロの恐怖に脅かされ、セキュリティ、身の安全を守る事が最重要課題になってしまふ…悲しい時代の到来ではありませんか？(S.W.)
- * 20年ほど前、台湾からの留学生と懇意にしていた。当時、N I E S諸国の中で、台湾の躍進ぶりは世界の注目を集めていた。同時代の学生の中で、好奇心や学習意欲の面で際立った存在であった。台湾特集を読んで、昔の記憶が蘇ってきました。(T.K.)

お詫びと訂正

第62号のWhat's New「人生は魚と共に」の著者の須之部氏の名前が須之辺氏になってしましました。第63号のReport「ポートランド留学記」のP7の写真説明で神力さんが中央となっていましたが、正しくは左端です。著者および読者の皆様に深くお詫び申し上げます。

前回の解答

〈解答〉 RIYADH

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| V | A | R | Y | | O | I | L |
| A | N | D | | P | U | R | E |
| N | T | | B | E | | A | S |
| | I | S | L | A | M | | S |
| D | | M | E | C | C | A | |
| A | B | | N | E | | C | A |
| R | A | N | T | | H | M | S |
| E | G | O | | M | E | E | K |

当選者

池田 幸恵さん 薄井 美和さん

小幡 正人さん 藤下 直実さん

山本 碧さん 正解者は14名でした。

N.I.A.スクウェア・第65号

発行2004年3月1日/発行責任者・白鳥 純

編集・習志野市国際交流協会

編集責任者・館川 裕

〒275-0016 千葉県習志野市津田沼5-12-12

サンロード4F

TEL/FAX 047-452-2650

<http://www1.seaple.ne.jp/nia>

<Eメール> nia@seaple.ne.jp